

東北地方被災地支援活動報告

日時：平成 23 年 8 月 26 日（金）～28 日（日）
目的：愛 B リーグによる炊き出し活動への参加（1,100 食）
被災地支援団体 T E N の活動支援（物資の仕分け）調査
被災地支援活動の継続のため、ニーズ収集
参加者 津山市：今村、正躰、沼、伊東
三枝：上山、グランド興業：福田 合計 6 名

内 容

炊き出し食数：土曜 430 食、日曜 670 食 合計 1,100 食

8月26日（金）

5:30 津山市役所発 今村車両同乗（6 名）
7:40 伊丹空港 伊丹（08：30 発）/ 仙台（09：55 着）
10:30 レンタカー借上（トヨタレンタカー） ワゴンタイプ
13:30 **支援物資仕分け作業** 宝性院の杉田さん実家の倉庫
～ 17:30
< 仙台市内泊 > ホテルメトロポリタン仙台

8月27日（土）

9:00 2 t トラック借上 ニッポンレンタカー仙台駅前ターミナル営業所
9:30 荷物受け取り 「クロネコ仙台中央 4 丁目センター」
11:00 ガス借り上げ（10kg 二口×2 個、5kg×1 個）
13:30 石巻市役所集合（愛 B リーグ団体）
14:30 仮設住宅到着（石巻市北上町）
16:00～18:00 被災地支援活動（炊き出し 430 食）
< 石巻泊 > 旭山ドライブイン

8月28日（日）

6:30 旭山ドライブイン出発
7:10 荷物受け取り 「ヤマト運輸 石巻河南センター」
7:30～14:30 南三陸町復興市にて被災地支援活動（670 食）
場所：南三陸町スポーツ交流村
15:00 片付け終了、ガス返却、ゴミ依頼
17:30 鉄板、テント、調理器具を津山に返送 クロネコヤマト 名取増田センター
トラック ニッポンレンタカー仙台南営業所 返車
ワゴン トヨタレンタカー名取駅前営業所 返車
18:00 仙台空港着 仙台（19：10 発）/ 伊丹（20：30 着）
23:00 津山市役所着

<炊き出しについて>

8/27(土): 石巻市北上町仮設住宅(143戸)

- ・ガスの手配、被災地の案内について前回同様石巻の木村さんに協力いただいた。
- ・大規模な仮設住宅であり、16時の提供前に100名以上の行列ができていた。
(仮設住宅での炊き出し回数は減ってきており、かなり喜ばれていた)
- ・前回の炊き出しに比べて被災者の表情が明るく感じられた。
(笑顔で「ありがとう」とおっしゃる方が多くおられた)
- ・人的応援で来られた千葉県勝浦タンタンメン船団の3名に手伝っていただいた。
- ・他に青森おでん学会、浜松餃子学会、アサヒビールが炊き出し活動を行った。



引越しパックの受け取り



ガスのレンタル



日和山より石巻病院を望む



石巻市役所(6月は閉鎖していた1Fの店舗が再開されていた)



石巻駅前に愛Bメンバー集合



仮設住宅に設営完了



勝浦タンタンメンの方々に協力いただき提供



お隣で提供されていた浜松餃子さん



右側がアサヒビールさん



愛Bメンバーで記念撮影

8/28(日): 南三陸町 「復興市」

- ・ 本年4月から毎月末に開催、今回で5回目(初めて晴天に恵まれたとのこと)
- ・ 会場には40を超える出店者があり、観光バス等県外からの来客も見られた。
- ・ 現金300円で販売し、総売上182,200円を寄附した。
- ・ 提供に際して登米油麩井の海老名会長とお店の方、金曜に仕分け作業を一緒に行った慶応大学加藤諒君に協力いただいた。
- ・ ゴミについては金曜にお世話になった杉田さんの実家で処理いただいた。
- ・ 横手やきそばの大澤さん、三浦さん、愛Bの上村さんに販売協力をいただいた。
- ・ 他に浜松餃子学会、アサヒビールが出店を行った。
- ・ 前回までと比較して来店者の総数は変わらないが、地元の方々の割合が増えているとのこと。
- ・ 復興市は南三陸の復興を一義にしているが、出展料が一律10%と低い。地元とそれ以外で分けるなど工夫が必要と感じた。



南三陸町の海岸近くの住居（屋上まで浸水）



南三陸町防災庁舎



南三陸復興市の様子



登米油麩丼、石巻やきそば、横手やきそば、慶応大学加藤君に協力いただいた。



終了間際、お客さんで賑わっている



愛Bメンバーで記念撮影

< 支援物資の仕分け作業及びT E Nの活動について >

8/26 (金): T E Nの代表杉田さんが管理されている倉庫の整理

- ・ T E Nは宝性院 (登米市津山町) の杉田史さんが個人的に始められた復興支援活動 (被災者のニーズを全国に発信し、物資を集め配給) をもとに近隣の住民等でより組織的に行うべく組織した任意団体。
- ・ Tシャツのほか、ティッシュカバー等復興支援商品を企画、販売し、売上で炊き出し等の支援活動を行っている。
- ・ 支援物資が納められていた倉庫は杉田さんの実家のものであり、中には全国からの毛布、衣料、マスク、オシメ、雑貨等が雑然と積まれていた。
- ・ 整理作業では全て倉庫から外に出し、不用品を選別した後、用途別に並べ替えた。
- ・ 災害ボランティアに来ていた慶応大学の加藤君とともに作業を行った。
- ・ 学生用のジャージを発送先別に小分けにし、梱包した。
- ・ 杉田さんの実家では7月にも「みなさまの縁をとりのつ隊」が泊めてもらうなど、登米油麩井の海老名氏を通じて愛Bリーグとしても現地での拠点として大変お世話になっている。
- ・ 今回ご実家の家業を手伝い食事をご馳走にもなったが、日々復興支援活動に取り組んでおられる方の仕事を我々の余った時間で手伝うことは当然である。次回は是非泊まって欲しいとも強く申し出てくださっている。



支援物資の入った倉庫 (左が杉田さん)



全部外に出して整理



きれいに収納



配付できないものは右奥に分離



食事を提供頂いた杉田さんの実家のお手伝い



旧津山町のロゴ（津山市の記事に酷似）

<被災地の様子>

- ・石巻市中心部では住宅を改修、新築している家等が見られたが、沿岸部や南三陸町では依然、町全体が廃墟と化しており、変化は感じられなかった。甚大な被害を被っている地域を目の当たりにし言葉を失った。やはり映像で観るのとは感じ方が違う。
- ・市内の宿泊施設は全て満室で、中心部の飲食店で再開が相次ぐなど、復興関係者によるお金が地域で還流し始めている。（我々が宿泊した作業員中心の簡易宿舎も満員に近い状況）前回気付かなかったかもしれないが石巻市街地にもネオンが灯り笑い声や歌声が戻って来ている。仙台市内の歓楽街ではバブル状態との話も
- ・石巻市役所の1階入居テナントがほぼ復旧していた。（6月最初の訪問時は全て閉鎖されていた）
- ・異臭、粉塵は大きく減っていた。
- ・交通インフラについても信号が復旧していない箇所や破壊され渡れない橋、舗装のはがれなど多く残っている。
- ・ICのETCゲートは1つのみで他は全て一般になっていた。（ETC利用者はごく少数）

<まとめ>

被災地では仮設住宅への入居が進んでおり、就労や自宅の再建など自立に向けた大きな課題が残されている。大工さんの需要が全く足りず、相場も高騰し、自宅を修理できるのは限られた人になっているとのこと。

一方で震災特需に沸く業界も多くあり、街に活気が戻りつつあるとお話を伺った。

今回初めて参加したメンバーも被災の状況を目の当たりにし、被災地への心境が大きく変化しており、何より継続して行くことが大事であると感じた。

石巻に関しては本当に少しずつだが、着実に前進しており、もちろん支援を継続していかなければならないが、ゴールの見えない状態で苦しんでいる福島（我々としては愛Bリーグの仲間がいる浪江町）への支援もぜひ行いたい。